

# 奈良のむかしばなし

第58話

奈良に古くから伝わる  
むかしばなしをご紹介します。



## まぐわ淵

文・山崎しげ子

西の生駒山と東の矢田丘陵に挟まれた平群谷へぐりだに。その谷間を竜田川が流れる。今回はその川の「まぐわ淵」と呼ばれるところに伝わる怖いお話。

竜田川が大きく蛇行するあたりのまぐわ淵は、奇岩や巨石が累々るいりと連なる不思議なところ。

＊

その昔、地元、橈原しほはらのお百姓さんが、一日の仕事を終えて「馬鋏まきわ」という牛（馬の場合も）に引かせて田植え前の田を耕す農具を肩に、牛を追いながらこの淵までやってきた。

お百姓さんは川で馬鋏の泥を洗い、ついでに牛の体も洗おうと、牛を川の中に引き入れた。

牛の脚を洗い、次に腹も洗ってやろうとした時、牛が突然、何かに驚き、奇声とともに飛び上がった。

あたりを見ると、さあ、大変、急な夕立ちのあと、川は急に増水し大きな渦を巻いていた。そして、あつという間に牛と馬鋏が淵に飲み込まれてしまった。

お百姓さんは命からがら岸へ上がった。噂を聞いた村人たちが駆けつけたが、牛と馬鋏は二度と上がってこなかった。

「こりゃ、淵の主にやられたのじゃ」と村人たちは言い合った。淵の主とはガタロ（カッパ）らしい。それ以来ここは「まぐわ淵」と呼ばれるようになった。

＊

まぐわ淵は、今も奇岩や巨石の間を水が滝のように白く泡だつて流れ、水音も「ゴーゴー」と激しい。深い淵は黒みを帯びて恐ろしいほどだ。

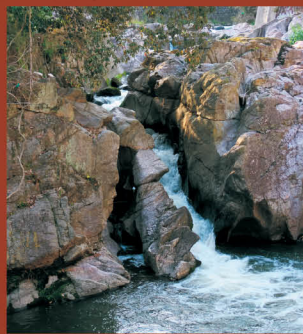
地元の人の話では、「子どものころ、ここで遊ばないよう親から注意された」という。子どもの冒険心や遊び心を強くいさめた伝説かもしれない。

道路からまぐわ淵に下りる遊歩道に沿った広い堤には、椿、桜、雪柳、山吹、楓かえで（もみじ）などが多く植えられ、四季折々、楽しめる。ことに六月は楓の緑が美しく、初夏の明るい光を受けて鮮やかに輝いている。

## まぐわ淵

奈良県景観資産にも選ばれているまぐわ淵は、近鉄生駒線東山駅前や平群北公園からの遊歩道が整備され、ウッドデッキから淵を間近に眺めることができる。また、近くには奈良時代に行基によつて開かれた金勝寺もあり、あわせて散策できる。

平群町観光ボランティアガイドの会に依頼すれば、役行者が開いた千光寺や石仏群も案内してもらえ、普段の散策で気付かないポイントも教えてもらうことができる。



問 平群町観光ボランティアガイドの会  
(あすのす平群内)  
☎0745-46-1120

## 物語の場所を訪れよう

まぐわ淵（平群町橈原）へは…  
近鉄生駒線 東山駅より約500m



問 平群町観光産業課  
☎0745-45-1017

